

Lesson 6 Thomas the Tank Engine and SDGs

■『機関車トーマス』の進んだレール

皆さんも一度は目にしたことのある、親しみのある機関車のキャラクター、トーマス。彼が最初に登場したのは、第二次世界大戦が終わった 1945 年のイギリスでした。当時は絵本でしたが、やがて人形劇やアニメとしても人気を博し、現在では最新の 3DCG を駆使したアニメとなり、世界中の子どもたちを楽しませています。

元々はウィルバート・オードリーという牧師が描いた絵本が始まりでした。それが多くの人に知られるようになったのは 1979 年のこと。放送作家のブリット・オールクロフトとウィルバートが知り合ったことがきっかけとなります。

長い間シリーズを続けるために、様々な試行錯誤を行われました。またそれと同時に、実際の鉄道で起こったことや、実際の鉄道のディテールにこだわり抜いたこと、さらにその時々最新の技術を取り入れることで、トーマスと仲間たちは息の長い存在となったのです。

教科書で取り上げられた国際連合との連携は 2018 年に始まりました。このときに女性の機関車を導入して、またトーマスが世界各国を回るエピソードを設けるなどして、国際化社会に合わせた内容となったのです。



■世界に飛び立つトーマス

国際連合との共同制作となった作品では、全 17 の目標のうち 6 つ、つまり「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」「住み続けられるまちづくりを」「つくる責任つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」をストーリーの筋とする取り組みが始まりました。

第 22 シリーズとなった本作はトーマスが中国とインド、オーストラリアを旅する内容となり、そこで現地の文化や環境問題を学びます。さらに一年後の第 23 シリーズにはさらにブラジルやイタリア、そして第 24 シリーズでは日本、それも新幹線のケンジが登場します。

世界を旅してトーマスが多くのことを学び、子どもたちに伝えたいメッセージを国連が手掛けるアニメを通して届けます。教科書で紹介した Goal 11, 12, 15 の他に, Goal 4 では世界の国々を見たうえでトーマスが話す教育の重要性, Goal 5 では少年と少女が同等に機会や権利を与えられることの素晴らしさ, Goal 6 では地球上すべての生物にとっていかに水が大切なのかを, 世界の実例や問題をからめて紹介しています。

今日も子どもたちに大切なメッセージを届けるために、トーマスは世界を走り回っているのです。